

日本産デストマ(妹尾)

れば十ヶ月なり。仔鯨は一つにして二つのことは稀なり。仔は母體の約四分の一なり、哺乳の際に母は水中に横に傾くといふ。(以下次號)

●日本産デストマ (承前)

(明治四十年十一月二十五日受領)

理學士 妹尾 秀 實

III. *Pneumonoces variegatus* (Kud.)

(第一版第五、六圖)

Literatur:

Distonno variegatum Rudorphi, 1819. Fintzoorum

synopsis, P. 99 u. 378.

” ” Dujardin, 1845. Hist. nat. des

Helm. P. 416.

Distonno variegatum Looss, 1894. Die Dist. unse-

rer Fische u. Frösche. P. 71.

Haemutolaelus variegatus Looss, 1893. Weitere

Beiträge z. Kennt. d. Trem. Fauna Aegyptens.

10

in : Zool. Jahrb. Vol. XII, P. 601.

Pneumonoces variegatus Looss, 1902. Über neue u.

bekannte Trem. aus Neeschildkröten. in : Zool.

Jahrb. vol. XVI. Heft 3-6. P. 732 u. 839.

Ostiolium formosum Pratt, 1903. in : Mark Annive-

rsary Vol.

Pneumonoces longiplexus etc. J. Stafford. Trem.

from canadian vertel. in : Zool. Anz. Bd. 28, Nr.

21/22. P. 687.

日本産トノサマガハルの肺臓の中より此蟲體を摘出せり、而してロース氏の記載と對比するに蟲體の總ての點に於て全く合致す。余の得たる標本の尤も大なるものは、長徑十三ミメ、巾三ミメに達せり。

IV *Pneumonoces lobatus* n. sp.

(第一版第七圖)

所在、此の蟲體も又日本産トノサマガハルの肺臓中より得たり。

形態、前項の *P. variegatus* と此蟲體とを比較するに、

雌雄の性に依り其の大きき形を異す、雌は細瘠にして雄の五分の一 (Beale) 三分の一乃至四分の一の大きき有す。雄の最大なるものは八十呎より八十五呎の長さあり、頭は全長の約三分の一を有す、頭に腔あり、其内に鯨腦油及び油を含有す。最も幼少なる抹香鯨は十六呎に過ぎず其重量は三、〇五三封度なりといふ。

色は黒或は黒褐色にして兩側は色薄く胸部は灰白色なり。老鯨は鼻と頭頂は灰白色となる。

習性

抹香鯨は性群居を好み。屢々大群を爲すことあり。ピール氏の說に依れば二種あり。(一)雌鯨の仔を伴ひ群居せるに一頭又は二頭の雄鯨交はるもの。(二)幼鯨と未成年鯨の群。而して雄鯨は常に單獨なりといふ。

スカンモン氏は其の游泳の様を記して曰はく。

抹香鯨の水面に來るや先づ其の脊部を出し次で其の頭を昂げ凡そ三秒程の間靜かに呼吸す、其の體内の呼氣は白き蒸氣となりて斜に前方に噴出す、之れを「潮吹き」といふ天氣清明ならば橋頭より凡そ三四哩の距離に於て之れ

クデラ(田子)

を認むることを得べし。靜穩に呼吸するときは鯨は頭を水中に没することなし又或時は一時間に二三哩の速力にて動くことあり。又生息場を移轉する時には呼吸に依りて速力の増すことあり。此時には潮吹たる後鯨は頭を水中に入れ辛じて僅かに吸氣し後直ちに水中に没す。其後再び呼吸の爲めに表面に出現するものにして此時は極めて正確なる時出現す。鯨の一呼吸の爲めに要する時間は十秒より十二秒なり。鯨は一般に六十乃至七十五回潮を吹き殆んど十二分間海の表面に出現す。呼吸了るや直ちに頭端下方に向け其尾羽毛を高く空中に擧げ殆んど垂直の狀を爲し非常に深き海底に降り十五分乃至一時十五分間海底に止まる。

日本近海にありては太平洋殊に銚子沖及金華山沖と小笠原群島との間に生棲す。

食物。イカ及魚類なり。カウチ氏の說に依れば二十呎の幼鯨の胃中に三百の鰭を發見せりといふ。日本の鯨はイカ及カツヲを見るを常とす。

生殖。生殖時期は周年、妊娠期はスカンモン氏の言に依

その形ちに於てやゝ異なる所あり。即ち前者の前端と後端とが稍々尖りて狭小となるに對し此蟲體にてはその後端に至るに従ひ益々其巾を増加し殆んど錐體の狀をなせるものなり。充分發達せるものにては、長さ一〇、八ミメ、巾尤も廣き所にて三、七ミメに達す。

消化器、卵黃巢、及び膀胱等の形態は *P. variegatus* と全く相同じ、只大に異なる特徴とする點は卵巢の形にして、圖に示せる如く前者の蠶豆形なるに反し、數多切れ込みを有する半圓の重瓣形を示せり。ロース氏の *P. variegatus* の記載を見るに「卵黃は殆んど球形をなすか又は腎臟形をなすものなり」とあり。其他の記載を搜索するもロース氏のそれと全く同様にして、余の實見せる如き切れ込みある重瓣形を示せるものなし。故にこの固有なる特徴をあらはすために *P. lobatus* なる新稱を附することゝなせり。

V. *Diplodiscus subclavatus* Goege.

Litteratur :

Amphistomum subclavatum Looss, 1892. Über

日本産ヂストマ(妹尾)

*Amphistomum subcl. Rad. und seine Entwickl-
ung.* in: Festschr. Leuckart. Leipzig, P. 147—
167.

Diplodiscus subclavatus Goege. Pratt, 1902. Synop-
sis of digenetic Trematoda. in: The American nat.

Vol. 36 p. 887.

日本産トノサマガヘル及びアカガヘル (*H. japonica*) の直腸中に存せる多數の蟲體を得たり。而して余の見たるものは全く上記のリテラツールと對比して、寸毫の相異を示さざりき。

VI. *Loxogenes liberum* n. sp.

(第一版第九圖)

蛙の腸に寄生する「ヂストマ」に就て從來發見せられたるものは左の六種のみなり。

Prostocus confusus Lss.

Pr. tener Lss.

Pleurogenes claviger (Rad.)

Pl. medianus (Ols.)

日本産デストマ(妹尾)

Brundisia turpida (Brandes.)*Toxogenes arcuatum* (Nickerson.)

即ち最後の *Toxogenes arcuatum* なるものは、一九〇〇年 Nickerson 氏が始めて *Dist. arcuatum* n.sp. として報告したるものを (Amer. Nat. vol. 34, p. 811) 後に至り Pratt 氏は *Brundisia* なる属をなせり (Amer. Nat. 36 p. 959)、而して最近一九〇五年に Stafford 氏は更にその生殖孔が蟲體の中央線にあらずして、全く左側に偏在するといふを以て *Toxogenes* なる所屬に變入したるものなり。故に以上六種を一括して Looss 氏の分類せる *Helicogenitinae* なる一の Unterfam. の中には次の如く排列するを得べし。

Unterfam. Pleurogenitinae.

(Fam.)	<i>Prosoforus</i>	<i>Pleurogenes</i>	<i>Brundisia</i>	<i>Toxogenes</i>
Arten	<i>P. Confusus</i>	<i>Pl. Chaetiger</i>	<i>B. turpida</i>	<i>T. arcuatum</i>
	<i>P. leuei</i>	<i>Pl. nudatus</i>		

以上の六種は何れも生殖孔は蟲體の中央線に存せずして體側に偏在するものなるが、予の發見したる日本産ト

一一一

ノサマガヘル (*B. esculenta*) の腸に寄生する「デストマ」も同じく體の左側に偏在したる生殖孔を有す、而してこれを前記六種の蟲體に比較するに甚だ近接せるヘルワンテなりと雖も仔細に之を觀察するときは前者の *Diagnose* に全く一致せざる所あるを發見したり。故に比較的尤も近き *T. arcuatum* の腸壁にエンシストせるに對し予の蟲體は *Tylorus* よりや後部に自由生活をなせるより *T. liberrum* なる新稱を附することゝなせり。

T. liberrum はトノサマガヘルの *Tylorus* より腸に曲らんとする部位に寄生し全くその所在は *Pr. confusus* のそれに一致す、而して予の實驗する所によれば此蟲體が只單一に寄生する事稀にして多くは同種のものその齡を異にし、數多群居するを常とす。

蟲體の形は多少卵圓形にして、*Pr. confusus* の如く圓形ならず、又 *Pl. chaetiger* の如く長き筈形にあらずして却て *P. leuei* の形に酷似し、その前端やう尖り後端は圓みを帶ぶ。予の得たる蟲體の最大なるものにて長徑一、二七ミメ、巾〇、八九ミメ、を示せり。

兩吸盤は不等にして、口吸盤は〇、一七ミメ、腹吸盤は〇、一二五ミメの直径に達す。表皮は〇、〇〇五ミメの厚さを有し、而して體の最後端を除き殆んど一面に無數の小棘針を密生すること *Pr. confusus* に似たり。而して針の長さは〇、〇〇五ミメ、巾〇、〇〇一ミメを有し相互の距離は〇、〇〇三ミメを算す。

消化器は小さき咽喉及び短かき食道に次ぎて兩肢に分れたる腸あり、その形は *Pr. confusus* の如く恰も軍艦時計のネヂに似たり。然れども決して口腹兩吸盤の間點以下には達する事なし。内容物は黒色又は褐色の粒狀體を包藏す。

泌尿器はV字狀に開きたる囊にして *P. tener*, *P. confusus* に似たり、兩肢の囊は腹吸盤と同じ水平線上に達す而して中に水狀液を充たし多少光線を屈折する油狀の大小粒體を浮遊するを見る。

生殖器、これその生殖門の位置により予の蟲體が固有の特徴を示す所なり、*Pr. confusus*, *Pr. tener*, *pl. clavicornis*, 及び *Pl. medians*. については腹面の左側端に各生殖孔

日本産ダストマ(妹尾)

を有すれども、日本産のものにては體側端にあらず又中央線にもあらずして、やゝ左側に偏し、腸及び卵巢の後方に位置す。この點は Stalford 氏の *Toxogenes circumn* に獨り酷似すと雖も又これと比較すればその生活する狀態及び其他の諸器官が明かに一致せざる所あり。

雄生殖器、二個の睪丸は蟲體の短中軸線の前方に位し球狀又は橢圓形を呈す而して各一本の輸精管を出だし相合してチルスボイテルに入る。他のヘルワンテと異なる所は射精管の方向が體側に向かずして却て長中軸線に向く事なり。

雌生殖器は長中軸線上にありて球狀をなし腸の後部に位す。直径は〇、一四ミメを算す、輸卵管は後方に走り第一に受精腔に至る、此處には多少の精蟲ありてその移動するを認め得べし、尚ラウラー氏管、受精囊及び二本の輸卵管降り來りて相會合するなり。

卵黄巢の位置及び形態は又固有なるものにして、葡萄狀を呈し全く體の前端に位す。子宮は *B. turgida* のそれと異り却て *P. confusus* に似たりその後端は睪丸とチ

日本産ダストマ(妹尾)

一四

ルスボイテルとの中間を上りて生殖門に達す。

卵の形状は細長にして長軸〇、〇三三ミメ、巾〇、二三
三ミメに達す、卵殻は黄褐色にして卵蓋明了なり。

左に一括して *L. liberrima* が他のヘルワンテと相異せ
る主要なる諸點を表となして掲ぐ。

寄生の場所	子宮	卵黄巢	體長	卵の大きさ	兩吸盤の比例直	生殖孔	卵巢	睪丸
蛙の Pylorus の後端に自由生活をなして寄生す	同 上	同 上	一、三六ミメ	長〇、〇三四ミメ 巾〇、〇一三ミメ	MSN:BSN:: 16:15	體の前端頸部左部端にあり	球形にして長中軸線上に位し腹吸盤の前方にあり	球形喉頭の左右にありて全く虫體の前端に位す
同 上	同 上	葡萄状	一、三三ミメ	長〇、〇二八、一〇〇二九 巾〇、〇一三、一〇〇一四 ミメ	MSN:BSN:: 17:15	口吸盤の左側にあり	やゝ楕圓形	球形、Pylorus よりやゝ後方にあり
同 上	同 上	同 上	一、二七ミメ	長〇、〇三三ミメ 巾〇、〇一五ミメ	MSN:BSN:: 17:12	長中線より左に位すと雖も全く體側に非ず、睪丸の上部にして卵巢の左にあり	球形、長中軸線上にありて腸の後部にあり	球形、Pylorus よりも稍後方にいて卵巢の後部にあり
同 上	同 上	同 上	二、二、五ミメ	長〇、〇三八ミメ 巾〇、〇一三ミメ	MSN:BSN:: 5:3	腹吸盤の前端、睪丸の上にあつて全く體の左側端にあり	不定形にして細かき花瓣狀を呈す殆んど體の中央に位す	不定形、卵巢より前部にありて體側に位す
蛙の Pylorus にハシメス	腹内盤の後部に多し	樹枝狀にして體の中央の高さに位す	二、一、五ミメ	長〇、〇二三ミメ 側〇、〇一三ミメ	MSN:BSN:: 大なり	左の腸肢より左側に位するも全く體の側端にあらず	不定形にして殆んど體の中央に位し腸の後部に接す	不定形腹吸盤と同一高さにあつて

體形	器官類
殆んど圓形	<i>P. Confusus</i> Lss.
前端稍尖り後端圓みを帶ぶ	<i>P. tener</i> Lss.
同	<i>L. liberum</i> (u.s.p.)
上	<i>B. turgida</i> (Brandes)
後端稍尖る	
殆んど圓形	<i>L. arcanum</i> (Nickerson)

右の表に *Pleurogenes* なる屬を加へざりし理由は、

Loxogenes と比較するにはその生殖孔、腸管、及體形に於て餘りに相違する所ありたればなり、而して表によりて一見直ちに *L. liberum* は從來知られ居たるヘルワントの何れにも一致せざる事を認知することを得べし。

結論として最後に予は、次の如き推定をなすものなり
 そはこの *Loxogenes liberum* は生殖孔、卵黄巢、及睪丸の位置等諸特徴の關係により *Pr. confusus*, *Pr. tener*, 及 *B. turgida*, の中間に插まれ得べき性質を有するものなるが故に尙將來の研究によりて、上記の三屬が一の連鎖をつくり遂に一屬の内に包括せらるゝの期至るならん
 と。(以下續出)

●白蟻の生殖法に就て

(明治四十年十一月二十八日受領)

大島 正 滿

人も知る如く白蟻は普通の蟻に酷似せる昆蟲であつて其習性及び社會組織等兩者殆ど一致せる點が多いが前者は *Hyymenoptera* に屬し後者は *Neuroptera* に屬する點に於て根本的に異なるものであると同時に其分業の程度に於て白蟻の方が幾分かすぐれて居る様に思はれる。

白蟻は重に熱帶産の動物であるが内地では僅に中國九州等の温暖なる地方に産するのみ然し海を超えて臺灣に渡れば行くとして其姿に接せざる所なき有様である。

白蟻の社會に特有にして又他の蟻より勝れたる點は其中に *Nymph* と稱せらるゝ一群が存在する事である之に大